

令和元年度 施策評価(案)概要

全51施策の評価(案)

評価基準

- ①施策を構成する事業の進捗状況
- ②成果指標等の状況
- ③施策に関する社会経済情勢等の変化

評価 (案)

評 価	施策数
◎：順調	18 施策
○：概ね順調	29 施策
△：やや遅れている	4 施策
×：遅れている	0 施策

特にご意見をいただきたい施策

- 施策1-1 ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり
- 施策1-8 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
- 施策2-1 支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化
- 施策6-1 産学官連携による、知識創造型産業の振興
- 施策7-2 創造的活動の基盤となる文化芸術の振興
- 施策8-5 グローバル人材の育成と活躍の場づくり

選定の考え方

- ①基本計画策定後の社会情勢の変化や動き（子ども、テクノロジー）などに対応したもの（1-8, 6-1）
- ②福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進（関連交付金事業）に関するもの（6-1, 8-5）
- ③施策の進捗がやや遅れているもの（2-1）
- ④これまで「特にご意見をいただきたい施策」として一度も選定していないもの（1-1, 2-1, 7-2, 8-5）

施策の方向性

ユニバーサルデザインの理念に基づいた、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、すべての人が安全で快適に利用できるバリアフリーのまちづくりを進めるとともに、市民に対してユニバーサルデザインの考え方を広げ、思いやりの心を育みます。

1 事業の進捗状況

●ユニバーサル都市・福岡の推進

ユニバーサルデザイン・バリアフリーの普及啓発

- ・ユニバーサル都市・福岡のロゴマークの掲出箇所数（累計） H30n：3,795枚（配布枚数）→ R1n：4,446枚（配布枚数）
- ・バリアフリー関連市民向け講座の開催回数 H30n：11回 → R1n：11回

ノンステップバス導入への補助（公共交通バリアフリー化促進事業）

- ・ノンステップバスの導入率 H30n：37% → R1n：40%

鉄道駅のバリアフリー化への補助（公共交通バリアフリー化促進事業）

- ・鉄道駅（1日平均利用者数3,000人以上）のバリアフリー化率 H30n：98% → R1n：100%（完了）

ユニバーサルデザインタクシー導入への補助（公共交通バリアフリー化促進事業）

- ・ユニバーサルデザインタクシーの補助台数 R1n：129台

地下鉄駅におけるユニバーサルデザインへの配慮

- ・トイレのバリアフリー化完了駅数（全35駅中） H29n：35駅（完了）
- ・駅案内サインの改良駅数（全35駅中） H30n：29駅 → R1n：35駅（完了）
- ・光警報装置の設置駅数（全35駅中） H30n：1駅 → R1n：15駅

道路のバリアフリー化（歩道のフラット化）

- ・生活関連経路のバリアフリー化率（市管理の国道・県道・市道） H30n：87.5% → R1n：89.4%（見込み）

バス停等におけるベンチ設置による外出しやすいまちづくり

- ・市有地のベンチ設置数（累計） H30n：68箇所124基 → R1n：88箇所155基

バス利用環境の改善（バス停の上屋・ベンチ設置）

- ・道路管理者(市)によるバス停の上屋・ベンチの設置数（累計） H30n：19箇所 → R1n：21箇所（見込み）

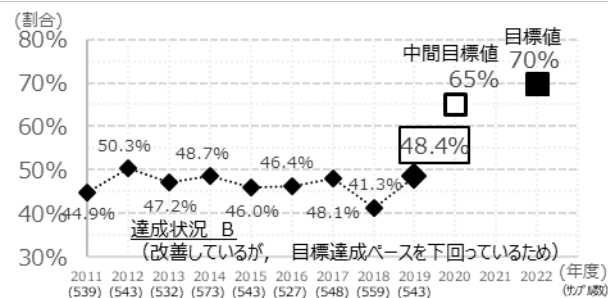
サービス付き高齢者向け住宅の供給促進 <再掲3-3>

- ・サービス付き高齢者向け住宅の登録戸数 H30n：3,158戸 → R1n：3,266戸

2 成果指標等

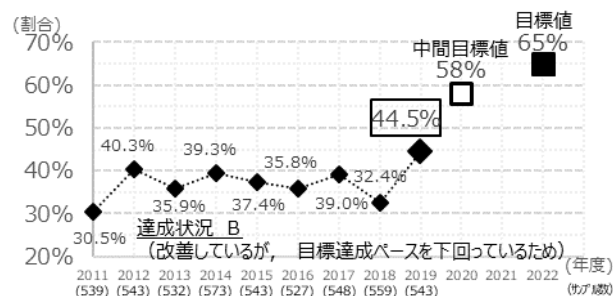
指標①

ユニバーサルデザインの概念の理解度
(ユニバーサルデザインという言葉の意味を知っている市民の割合)



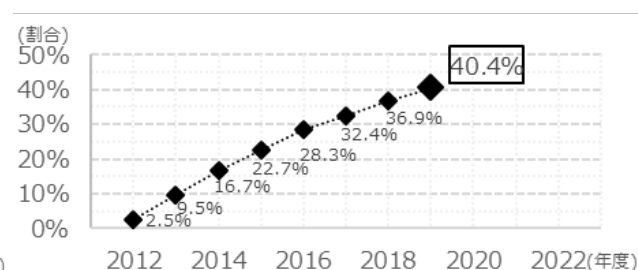
指標②

ユニバーサルデザインの取り組みへの評価
(ユニバーサルデザインの取り組みが進んでいると思う市民の割合)



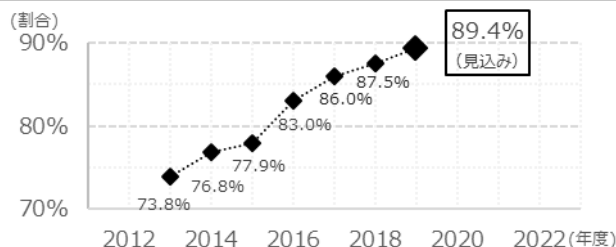
指標③

ノンステップバスの導入率 [補完指標]



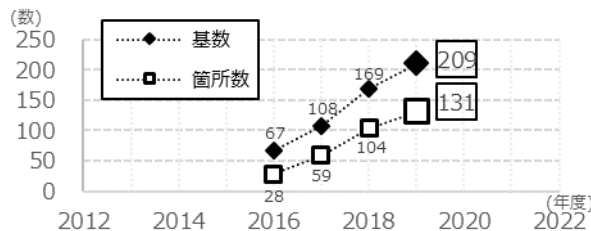
指標④

生活関連経路のバリアフリー化率
[補完指標]



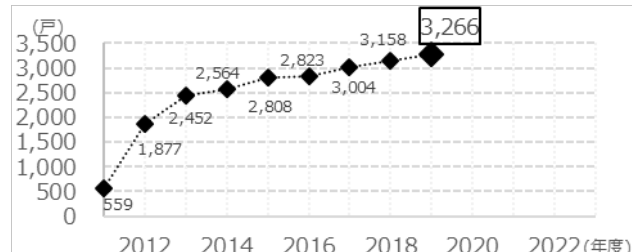
指標⑤

ベンチプロジェクトによる
ベンチ設置箇所・基数 [補完指標]



指標⑥

サービス付き高齢者向け住宅登録数
[補完指標]



ノンステップバスの導入促進(指標③), 生活関連経路のバリアフリー化(指標④), ベンチ設置箇所数増加(指標⑤)やサービス付き高齢者向け住宅登録数増加(指標⑥)など, 市民に身近な場所においてユニバーサル都市・福岡の取り組みを着実に進めており, ユニバーサルデザインに関する市民の理解度や評価(指標①, ②)は改善しているが, 目標値の達成に向けて, さらなる取り組みが必要である。

3 事業の進捗状況, 成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○: 概ね順調

[参考] 前年度
△: やや遅れている



施策1-8 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成

施策の方向性

基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成をめざした教育に取り組むとともに、教育環境の整備を進めます。また、いじめ、不登校などに対応する体制を整備し、社会全体で子どもをはぐくむ「共育」を推進します。

また、さまざまな体験活動の場の充実を図るなど、子ども・若者の自立心や社会性の醸成と健全な育成への取組みを進めるとともに、ニートやひきこもりなど困難を有する若者への相談体制の充実や、就学・就労など社会参加に向けた支援などを推進します。

1 事業の進捗状況

●「生きる力」を持った子どもの育成

確かな学力の向上

- ・補充学習の実施小中学校の割合 H30n: 98.1% → R1n: 97.2%
- ・普通教室のICT環境整備実施校数 R1n: 全小学校・高等学校

豊かな人権感覚と道徳性、健やかな体の育成

- ・CAPSの実施小学校数 H30n: 140校 → R1n: 141校
- ・社会人講話実施中学校数 H30n: 23校 → R1n: 23校（年間23校ずつの予定）

特別支援教育の推進

- ・学校生活支援員の配置人員数 H30n: 200人 → R1n: 213人

●国際教育の推進

国際教育の推進

- ・公開授業等研修会の実施校数 H30n: 144校 → R1n: 144校
- ・英語スピーチコンテスト校内予選実施中学校数 H30n: 69校 → R1n: 69校

●いじめ・不登校等対策の充実

いじめ・不登校等の未然の防止・早期対応

- ・いじめゼロ取組み実施校数 H30n: 全小中学校 → R1n: 全小中学校
- ・Q-Uアンケートの利用率（小中学校） H30n: 100% → R1n: 100%

●子ども・若者の健全育成の取組み

学校施設などを活用した遊びや活動の場づくり

- ・放課後等の遊び場づくり事業実施校数 H30n: 126校 → R1n: 136校

主体的・創造的な活動の推進＜一部再掲7-5＞

- ・「ミニふくおか」参加者数 H30n: 延べ1,701名 → R1n: 1,504名

●教育・健全育成環境の整備

学校規模に起因する様々な教育課題への対応（学校規模の適正化）

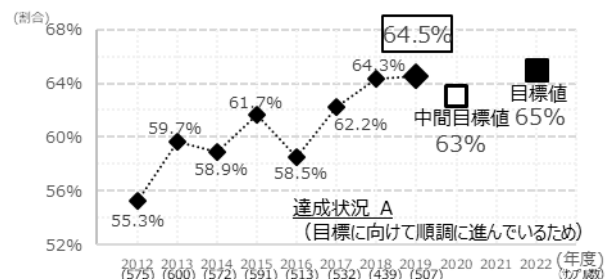
- ・照葉北小学校開校（H31.4）

2 成果指標等

指標①

地域の遊び場や体験学習の場への評価

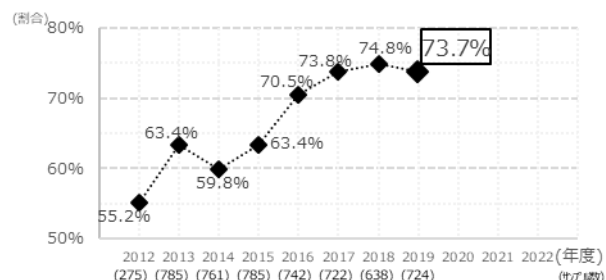
(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)



指標③

学校の教育活動に対する満足度

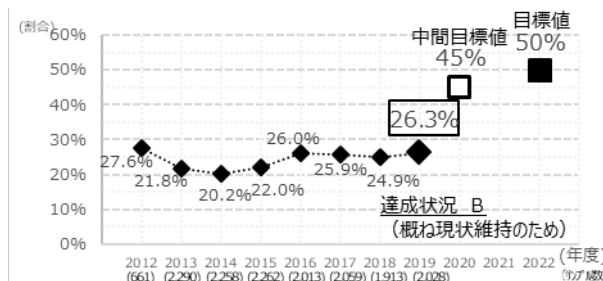
(②から「わからない」「無回答」を除いた割合) [補完指標]



指標②

学校の教育活動に対する満足度

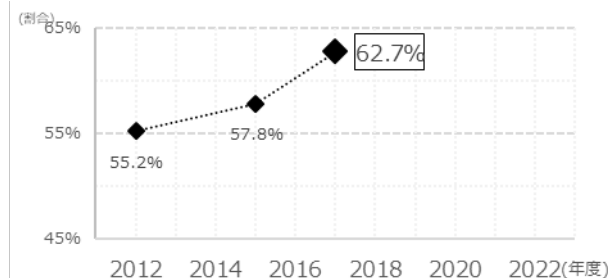
(保護者を含む市民全体の満足度)



指標④

学校教育活動についての満足度

(保護者対象) [補完指標]



指標①は、放課後等の遊び場づくり事業やミニふくおか等の取組を進めた結果、地域の遊び場や体験学習への評価に結びついていると考えられる。

指標②は前年度に比べ増加している。また、指標③のとおり、「わからない」「無回答」を除いた肯定的な評価はここ数年高い水準で推移しており、指標④についても増加傾向にあることから、子どもをもつ保護者や教育に関心のある人の満足度は高くなっていると考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度
○：概ね順調

施策2-1 支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化

施策の方向性

「地域コミュニティの自治の確立」に向け、自治協議会や自治会・町内会など地域コミュニティの基盤強化や、住民の自治意識の醸成を図ります。

また、地域コミュニティが主体的にまちづくりに取り組めるよう、地域の人材の発掘・育成を図るとともに、さまざまな地域の特性に応じた先進的な取組みを紹介するなど、地域情報発信の充実を図り、地域コミュニティの活性化を支援します。

1 事業の進捗状況

● 地域コミュニティの活性化

共創の取組みの推進

- ・自治協議会共創補助金の交付校区・地区数 H30n：150 → R1n：151
- ・地域への支援回数(共創コネクターによる地域や企業等からの相談受付件数)(累計) H30n：105 → R1n：155
- ・共創の取組みの推進に向けたワークショップ等の開催地域数，参加人数(累計)
H30n：18地域，678人 → R1n：19地域・その他全市的なもの1件，724人
- ・新たな共創の取組み数(市が関わったもの)(累計) H30n：19 → R1n：27
- ・共創による地域づくりアドバイザー派遣回数，参加人数 H30n：64回，8,831人 → R1n：53回，6,369人

魅力・絆・担い手づくりの推進 <一部再掲2-2>

- ・地域デビュー実施団体数，地域デビューした人数(累計) H30n：491団体，48,430人 → R1n：533団体，56,502人
- ・“ふくおか”地域の絆応援団登録数(累計) H30n：69 → R1n：71
- ・“ふくおか”地域の絆応援団セミナー実施回数，参加人数 H30n：4回，約150人 → R1n：2回，約650人
- ・地域の担い手パワーアップ事業実施公民館数(累計) H30：301館 → R1n：392館
- ・“共創”自治協議会サミットの参加人数 H30n：約650人 → R1n：約600人
- ・地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈団体数 H30n：15 → R1n：実施なし

コミュニティパーク事業の推進

- ・市と地域とのコミュニティパーク事業協定数(累計) H30n：4か所 → R1n：6か所

2 成果指標等

指標①

地域活動への参加率

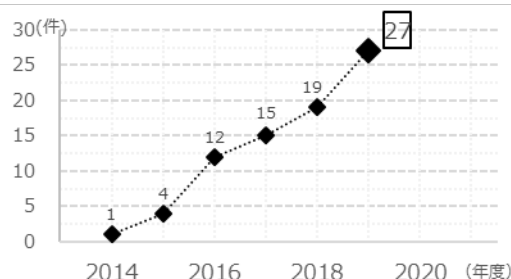
(地域活動に参加したことがある市民の割合)



指標③

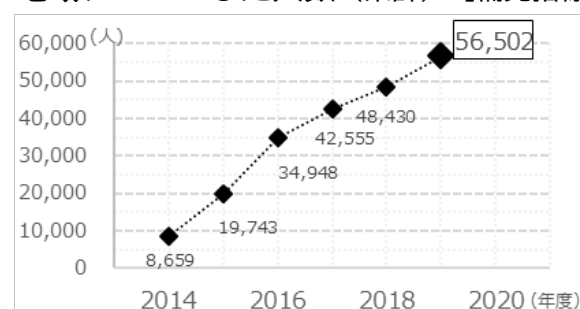
新たな共創の取組み数 (市が関わったもの)

(累計) [補完指標]



指標②

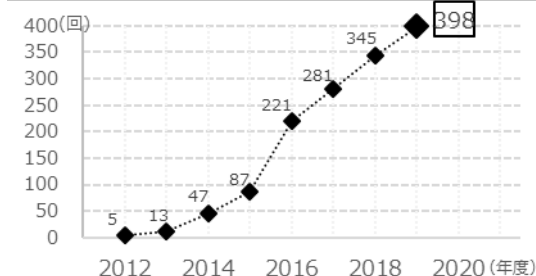
地域デビューした人数 (累計) [補完指標]



指標④

共創による地域づくりアドバイザー派遣回数

(累計) [補完指標]



地域活動への参加者を増やすには、地域活動になじみのない方に気軽に参加いただくことが必要である。地域コミュニティにおける共創の取組みを推進し、指標②、指標③、指標④は着実に増加しているが、地域活動への参加率 (指標①) の改善には至っておらず、今後、さらなる取組みが必要である。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている

[参考]前年度

△：やや遅れている

施策6-1 産学官連携による、知識創造型産業の振興

施策の方向性

大学や研究機関の集積による豊富な人材・技術シーズを生かし、研究開発機能を強化するとともに、（公財）九州先端科学技術研究所の実用化支援機能を生かしながら産学連携を推進し、ITやナノテクノロジー、ロボット、先端科学技術分野など、新しい時代をリードし、福岡市の将来を支える知識創造型産業の振興・集積を図ります。

1 事業の進捗状況

●知識創造型産業の振興

研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用

- ・ふくおか産学共創コンソーシアムによるセミナー等への参加者数 H30n：598人 → R1n：317人
- ・福岡市産学連携交流センター等におけるよろず相談対応件数 H30n：143件 → R1n：105件
- ・有機光エレクトロニクス実用化開発センターと企業との共同・受託研究数 H30n：50件 → R1n：79件
- ・福岡地域戦略推進協議会（FDC）の部会などによるプロジェクト創出支援

情報通信業の集積を活かしたIoT開発拠点化の推進

- ・IoT通信網（Fukuoka City LoRaWANTM）を活用した企業数（累計） H30n：60社 → R1n：64社

エネルギー関連産業の振興

- ・水素エネルギー関連のプロジェクト研究会等の新規設置数 H30n：1件 → R1n：1件

エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進

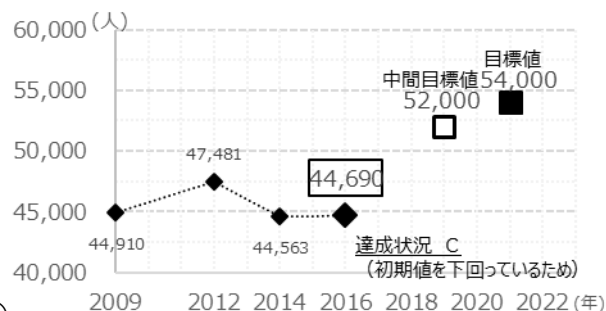
- ・エンジニアの交流拠点の開設とイベント等の実施

【総合戦略の推進（地方創生関連交付金）関連】

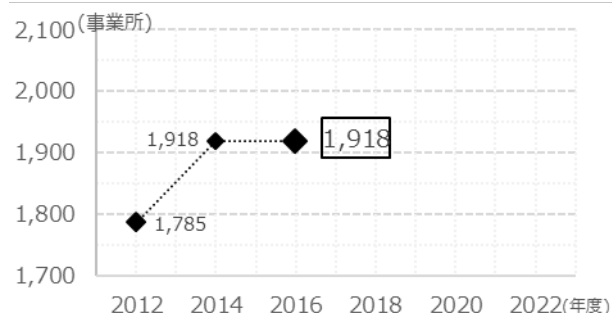
- エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進 ※詳細は資料7を参照

2 成果指標等

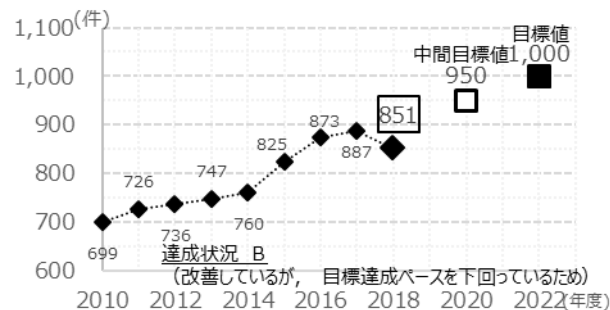
指標①
情報通信業の従業者数



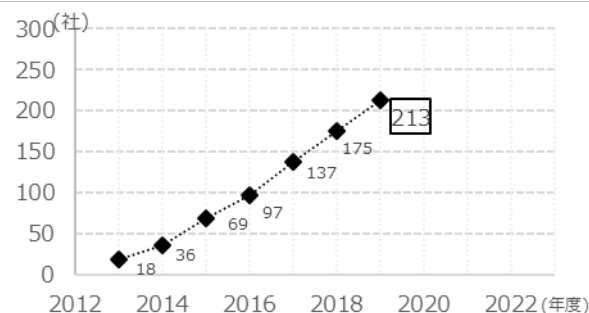
指標③
情報通信業の事業所数 [補完指標]



指標②
市内大学の民間企業などとの共同研究件数



指標④
知識創造型産業の誘致企業数(累計) [補完指標]



指標①については、初期値からは減少しているものの、前回調査からは増加しており、指標③については増加傾向、指標④については順調に推移している。引き続き、I o Tに関する事業やスタートアップの支援、クリエイティブ産業の企業誘致の推進に取り組む必要があると考えられる。

指標②については、前年度より件数が減少しているものの、初期値と比較して高い水準で推移しており、引き続き、大学・民間企業等の双方に産学連携の重要性が広く認識され、その取組みが継続されているものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度
○：概ね順調

施策7-2 創造的活動の基盤となる文化芸術の振興

施策の方向性

創造的な文化芸術活動は、デザインやファッションなどのクリエイティブ関連産業の基盤ともなるものです。これらを行う人々の自主性を尊重し、活動しやすい環境づくりを進め、福岡を拠点として、その能力が十分に発揮されるよう活動を支援します。

1 事業の進捗状況

●創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援

拠点文化施設整備（市民会館の再整備）＜再掲1-4＞

- ・市民会館の建替えに伴い、隣接する須崎公園と一体的に整備することで、都心に緑あふれる文化芸術空間を創出
- ・H31.4に事業者を公募し、R2.1に落札者を決定
- ・R6.3の開館を目指し、R2nは、基本設計、実施設計を行う

アジアとの交流・ネットワークを継承・発展させた事業の開催

- ・アジアとの交流・ネットワークを生かし、美術館の外でアジア作家の作品を展示（3回）
H30n：福岡城まるごとミュージアム、H30n/R1n：博多旧市街まるごとミュージアム
- ・ナイトタイムコンテンツを加えた新たな屋外型アートイベント（R2n予定）は、新型コロナウイルスの影響で開催時期と規模の再調整が必要
- ・引き続き、アジアとの交流・ネットワークを継承・発展させた事業の開催を目指す

【参考】 まるごとミュージアム

- ・福岡市の歴史文化と新規性が融合した、新たな魅力創出を図ることを目的に、お城や神社仏閣など歴史を感じることができるエリアで多彩な現代アートを展示
- ・H30nは福岡城跡、H30n、R1nは博多旧市街で開催

【参考】 福岡市美術館

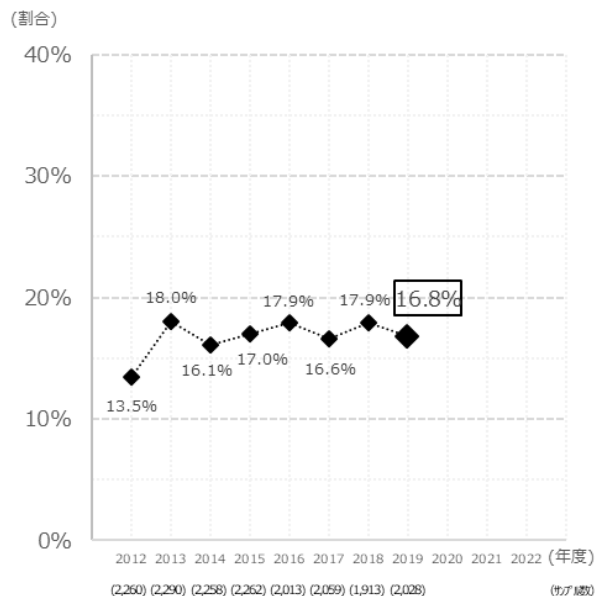
- ・H31.3.21リニューアルオープン（H28.9.1～H31.3.20 休館）

2 成果指標等

指標①

文化芸術活動を行う市民の割合

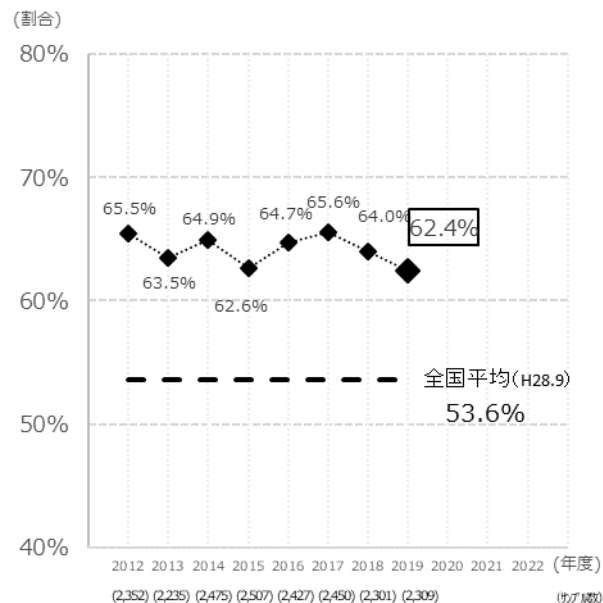
(過去1年間に1回以上文化芸術活動を行った市民の割合) [補完指標] <再掲1-4>



指標②

芸術・文化水準に関する満足度

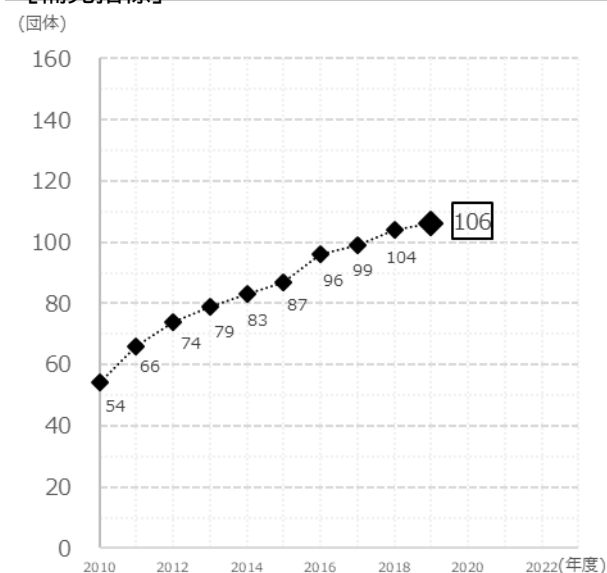
[補完指標] <再掲1-4>



指標③

アートNPO認証数

(学術・文化・芸術・スポーツ分野) (累計)
[補完指標]



指標①については、前年度から若干減少しており、屋外型アートイベントの実施など、市民が身近に文化芸術と触れあう機会の創出に、民間団体との連携や役割分担をより一層進めながら取り組んでいく必要がある。

指標②については、全国平均【53.6% (H28.9)】を上回る水準で推移しており、官民により、多彩な文化・芸術を楽しむ機会が創出されていることによるものと考えられる。

指標③については、アート分野におけるNPOが毎年一定数認証されており、NPOと連携し多様な文化施策を実施していく必要がある。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度
○：概ね順調

施策の方向性

国際感覚を身につけるためのさまざまな文化交流の機会を子どもや若者に提供し、グローバルに活躍できる人材を育成します。また、福岡で学ぶ留学生の学習環境を整え、地元での就業などによる定着を図ります。

さらに、さまざまな分野においてグローバルに活躍する人材とつながる機能や交流の場を創出することで、日本と世界をつなぐ人材の集積と交流の拠点をめざします。

1 事業の進捗状況

●グローバル人材の育成・集積

グローバル人材の育成

- ・アジア太平洋こども会議・イン福岡（APCC）の招へい国・地域数 H30n：35か国・地域 → R1n：35か国・地域
- ・英語チャレンジテスト 英検3級相当以上の生徒（中3） H30n：54.0% → R1n：53.7%
- ・スタートアップ奨学金の新規受給者数 H30n：6人 → R1n：7人
- ・小学校や中学校等におけるゲストティーチャー、ネイティブスピーカーの配置

留学生の育成・定着促進

- ・インターンシップ事業参加留学生数 H30n：9人 → R1n：18人
- ・産学官が連携し留学生の呼び込み・育成・定着を促進する
「グローバルコミュニティFUKUOKA推進プラットフォーム」の運営

留学生の呼び込み・ネットワーク拡充

- ・福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数 H30n：3,563人 → R1n：3,695人
- ・海外現地で開催の「日本留学フェア」等へ出展、留学生リクルート活動の実施

外国人の創業活動支援 <再掲7-1>

- ・スタートアップビザにかかる確認申請数 H30n：18人 → R1n：18人
- ・外国人創業環境形成事業への応募件数 H30n：8件 → R1n：9件

【総合戦略の推進（地方創生関連交付金）関連】

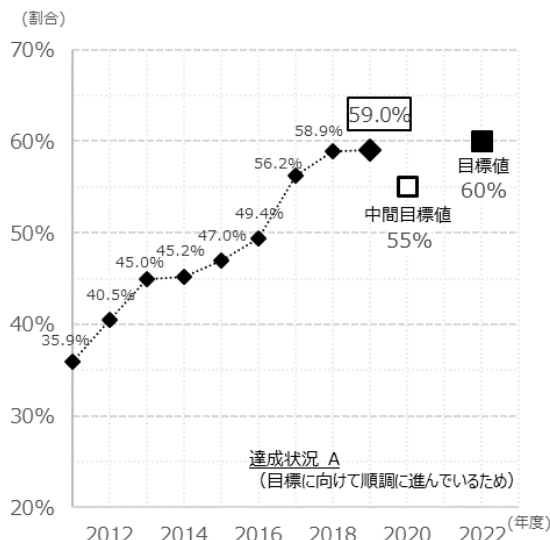
外国人材の受入・共生事業（高度外国人材獲得推進事業）

※詳細は資料7を参照

2 成果指標等

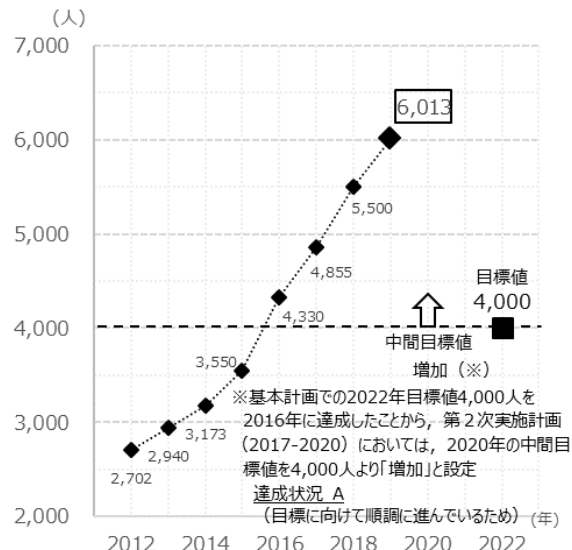
指標①

外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合



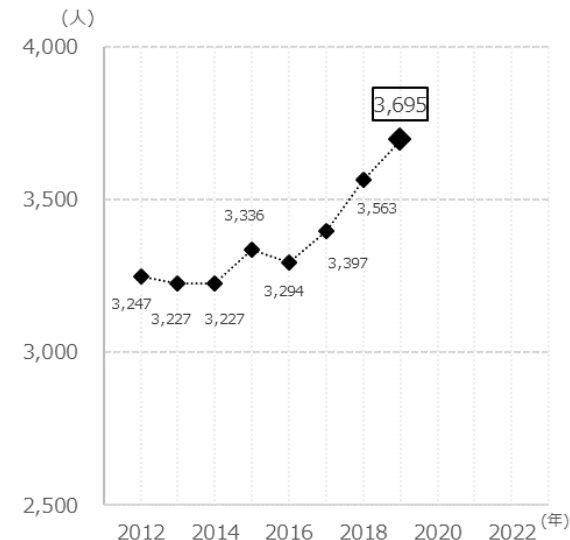
指標②

就労目的の在留資格をもつ外国人の数



指標③

福岡市の大学・短大に在籍する留学生数
[補完指標]



指標①は、目標値に向けて着実に増加しており、これは、コミュニケーション活動を重視する授業の時間が増えているからであると考えられる。

指標②は、「専門的・技術的分野」の外国人が増加していることを示しており、これは、創業活動支援や住みやすいまちづくりなどに全市的に取り組んだ結果と考えられる。

また、指標③は、福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数も増加傾向にあり、グローバル人材の集積が進んでいることがうかがえる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調

[参考] 前年度
◎：順調